

【茶】の【降灰】対策について

<通年>

農業経営支援課

(1) 予想される被害状況

- ・ 摘採葉に火山灰が混入することによる品質低下。
- ・ 大量の火山灰が茶園に降った場合、土壌 pH の低下 (pH 4 以下) に伴う樹勢低下による減収。

(2) 事前対策

- ・ 降灰が予想される場合には、スプリンクラーによる散水を行う。

(3) 事後対策

【萌芽前】

- ・ 摘採面の茶葉に火山灰が堆積するほど降灰量が多い場合には、降灰が落ち着いてからブロワーやほうきで火山灰を払い落とした後、スプリンクラーや洗浄機等で洗い流す。特に、萌芽直前は、摘採時に火山灰が舞い上がるのを防止するため、すそ部の洗浄も徹底する。

【摘採時期】

- ・ 摘採時に火山灰が舞い上がらないように、広めにすそ刈りを行う。
- ・ 製茶工場に生葉洗浄・脱水機がない場合は、ほ場での散水による除灰を徹底し、被覆除去後の茶園の新芽に火山灰が付着していないことを確認した上で摘採する。
特に、葉の重なっている部分や樹冠内は火山灰が残りやすいので注意する。
- ・ できる限り摘採位置を上げて摘採する。
- ・ 摘採前被覆している茶園で降灰が確認された場合は、摘採前日に被覆を除去し洗浄を徹底する。
- ・ 製茶工場に生葉洗浄・脱水機を設置している製茶工場では、摘採葉を丁寧に洗浄後、火山灰が付着していないことを確認し製茶する。
- ・ 摘採や整枝作業後は、作業機械（フィルターや回転軸、刈り刃等）の点検整備を行う。